

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度第1回上越市食育推進会議

## 2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）確定値の報告（公開）
- (2) 令和5年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）取組状況の報告（公開）
- (3) 令和5年度食育実践セミナー実施報告（公開）
- (4) 令和5年度食育市民アンケートの実施について（案）（公開）
- (5) その他（公開）

## 3 開催日時

令和5年9月29日（金）午後2時から4時

## 4 開催場所

市役所第一庁舎 401 会議室

## 5 傍聴人の数

0名

## 6 出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

- ・委員：松井千鶴子、保坂哲、中嶋里子、飯塚恵子、鳥越香菜子、金子修一、  
    菘輪若奈、亦野潤一、信田紘基、空周一、市川均
- ・事務局：農政課：栗和田課長、伊藤副課長、岩澤係長、中村主事  
    健康づくり推進課：大石上席栄養士長、幼児保育課：伊倉副課長  
    上越ものづくり振興センター：平原副所長、農村振興課：廣田副課長  
    教育総務課：佐藤副課長、学校教育課：古川副課長、社会教育課：竹内副課長

## 7 発言の内容

### （1）開会

【事務局：伊藤副課長】

- ・上越市食育推進会議規則第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、  
    会議の成立を報告。

### ・交代委員、職員紹介

【事務局：伊藤副課長】

- ・令和5年4月1日付けの人事異動に伴い、3人の委員が交代となったため紹介する。

中嶋里子委員（上越市小・中学校長会 上越市立上杉小学校長）

倉又久美子委員（公立保育園園長会 上越市立きよさと保育園長）

小林元委員（上越市健康福祉部長）

- ・任期は、前任の残任期間である令和5年4月1日から令和6年7月25日となる。
- ・あわせて、令和5年7月16日付けの人事異動に伴い、1人の委員が交代となったため紹介する。

金子修一委員

（株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 総合渉外部 新潟・北陸ゾーン 渉外担当）

- ・任期は、前任の残任期間である令和5年7月16日から令和6年7月25日となる。
- ・また、事務局職員の変更があったため、紹介する。

<事務局職員一括紹介（農政課、食育担当課7課）>

## （2）会長挨拶

### 【事務局：伊藤副課長】

- ・開会にあたり、松井会長からご挨拶を頂戴したい。

### 【松井会長】

- ・私の所属する上越教育大学は来週の月曜日から200円ランチをすることになっており、今年で3年目になるかと思う。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生の生活もいろいろな面で厳しくなっているので応援しようということで、大学の後援会が中心となって寄付等を募り、学生に200円でランチを食べてもらうということをしている。
- ・そういうところで何か学生が、食育の大切さや、食べることの大切さ、福祉の取組の大切を分かってもらえると嬉しいなと思っている。
- ・また、学部の3年生が9月の3週間、地域の小学校に教育実習に行かせてもらった。教育実習では学校の給食をいただき、小学2年生の配属になれば一緒に野菜を育てたりとか、5年生の配属になれば米づくりと一緒に刈り取りなんかをさせてもらったりしている。また、総合的な学習の時間などで、収穫したものを販売しようとか、どうやって食べようかというような相談をするなど、教科にこだわらず、様々なところで、勉強させてもらっている。
- ・そういった体験で得たことをもとに、教員になっても、食べることとか、食育にきちんと向かっていける教員になってほしいと思っている。
- ・今日お集まりの皆さんは、直接教育ということに限らず、健康や豊かに過ごすといった

様々な観点で食育を推進していただいている。上越市の食育がより進むよう、多様な視点でご意見をいただきたい。

**【事務局：伊藤副課長】**

- ・本日の会議録は、後日、市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいただきたい。
- ・「次第3 議事」に入る。進行は、上越市食育推進会議規則第2条第1項に「会長が議長となる」とあるため、松井会長に議長を務めていただきたい。

**(3) 議事**

**① 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）確定値の報告**

**【松井会長】**

- ・しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「(1)令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理表の確定値の報告」について事務局から説明願いたい。

**【事務局：岩澤係長】**

- ・資料No.1、No.2に基づき説明（説明省略）

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

**【市川委員】**

- ・資料No.2の中で、39番の地場産物を使用した給食の提供が未達成になっているが、その理由が明らかになっていないようなので、説明をお願いしたい。

**【教育総務課佐藤副課長】**

- ・令和3年度と比較すると令和4年度は使用割合が落ち込んだ。主な要因としては、例えば長ネギだと生育不良のほか、強風の影響で折れ曲がってしまったことで出荷ができなくなったことがある。にんじんについても生育不良のほか、強風の影響で砂がかぶってしまって、芽が出ないものが多くあった。サツマイモでは、他の販路に回ってしまっていて、学校給食の量が確保できなかった。キャベツについても生育に遅れがあって、予定した時期に収穫ができなかったことなどがあった。
- ・3年度と4年度とを比較すると、例えば長ネギでは3年度と比べて約1,100kg、にんじんでは約8,800kg、サツマイモでは約600kg、キャベツで約4,800kg使用料が減少し

た。

- ・学校給食については、JAさんともお話をさせていただきながら、その時期にとれる野菜を献立に取り入れるということで、可能な範囲で取り組んでいるが、実際に使いたい時に必要な野菜、必要な量が集まらなくて使用率が伸びなかったという状況である。

#### 【市川委員】

- ・当市の農業の特徴で、天候に左右されてしまうということかと思っている。
- ・食育推進計画にも、当地域は降雪により露地栽培の野菜の生産期間が限られたり、天候の影響を受けやすかったりする中で、学校給食での地場産物の使用率をさらに向上させるには、生産と供給を含めた仕組みから検討していく必要があると記載している。
- ・今現場では相当努力して規格を変更したりしながら使用率向上に努めているが、さらに上げるにはもっと抜本的な仕組みから検討していく必要があるのではないかと考えている。
- ・先ほど会長のご挨拶でも触れていただいたが、学校現場では、食育の取組、子どもたちへの取組を本当に頑張っている。それなのに、教育委員会が主に関わる指標が、天候の関係で未達成となってしまうとなると、今更ながら、これを数値目標として掲げていること自体どうなのかと思っている。次の改定等に向けて考慮していった方がよいと思う。
- ・この39番は、「上越の農林漁業への理解の促進」という基本方針に位置付けられた事業であるが、果たして、この農林、漁業への理解の促進のために、学校給食の野菜の使用量を指標に掲げることはどうなのかと、別の適切な指標を持つてくるべきなのではと考えている。教育委員会でも、引き続き考えて参りたい。少し自戒の念も込めて、そのようなことを、申し上げさせていただいた。

#### 【松井会長】

- ・途中でこの指標や目標値を変えることはないか。

#### 【事務局：栗和田課長】

- ・基本的に食育推進計画は、5か年の計画ということで定めている。指標については計画の実効性を確認するために、基本的には変えることはないが、例えば、途中で制度が変わったり、その事業が無くなってしまったりするような大きな課題や変化があれば見直すことはある。また、アクションプランについては、実効性を高めるための、1年ごとの策定となるので、個々の取組については、毎回、委員の皆さんからご意見をいただく中で、取組を進めていくものであり、毎年度、事業見直しが可能だと考えている。

## ②令和5年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）取組状況の報告

### 【松井会長】

- ・次第の「(2) 令和5年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）取組状況の報告」について事務局から説明願いたい。

### 【事務局：岩澤係長】

- ・資料No.3に基づき説明（説明省略）

### 【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。  
(質問無し)

## ③令和5年度食育実践セミナー実施報告

### 【松井会長】

- ・次第の「(3) 令和5年度食育実践セミナー実施報告」について事務局から説明願いたい。

### 【事務局：中村主事】

- ・資料No.4に基づき説明（説明省略）

### 【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。
- ・参加者が308人ということであったが、もっと増やそうという目標はあるか。

### 【事務局：栗和田課長】

- ・コロナ禍もあって4年ぶりの開催となり、この308人が多いか少ないかということは検証しづらい所があるが、最初スタートしたときは多くの方に来ていただいたものの、午後の方は少し閑散としている状況であった。具体的な目標は定めていないが、開催中できるだけ平均的に集客できればと考えており、午後にも来ていただいけるような仕掛けを工夫すれば500人以上には来場いただけるかと思っている。

### 【亦野委員】

- ・7番、その他の①のフードドライブに関連して、当店でもフードドライブを実施しており、この食品ロスに興味のある方が大勢いらっしゃるということを感じている。
- ・今回、単発のイベントでフードドライブを開催したときに、一体どれぐらいの方が、何点ぐらいお申し込みされたのか、差し支えなければ教えてほしい。

**【事務局：中村主事】**

- ・両手で持てるくらいのサイズの折り畳みコンテナで、2箱分が集まった。人数のカウントは正確に取っていなかったが、開催時間の10時から3時までポツポツと持ってこられる方がいて、10人以上の方からお持ちいただいたと思っている。実際に集まったものの写真をホームページの開催報告に載せているので、参考に見ていただければと思う。

**【亦野委員】**

- ・参加者が308人のイベントで、コンテナ2つ分が集まるというのはすごいと思うので、参考にさせていただく。

**④令和5年度食育市民アンケートの実施について（案）**

**【松井会長】**

- ・次第の「(4) 令和5年度食育市民アンケートの実施について（案）」について事務局から説明願いたい。

**【事務局：岩澤係長】**

- ・資料No.5に基づき説明（説明省略）

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

**【市川委員】**

- ・先ほどの学校給食の地場産物使用量の拡大を指標にしている話にも関わるが、市民の地場産物活用の意識がどう変化していくかを調べて、指標にしてはどうかと思う。
- ・今回のアンケートで、地場産物というワードで見ると、資料5-1の7ページの間16に、あなたが食品を購入する際に特に認識していることを選択肢として、地場産や国産であることというのがある。これを地場産と国産に選択肢を分けてもいいかもしれないと考えている。
- ・また、10ページの間21に、⑦地場産物の購入に関して、コロナの前後でどう変わったかという内容があるが、コロナの前後に関わらず、地場産物の購入を心がけているかという設問もあれば、次回の改定の時に、指標として挙げられるのではないか。そういう、今後の改定も視野に入れて内容を考えていったらどうかと思う。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・私どもも当然地場産物を市民の方に選んでいただきたいと考えており、地産地消は当然

大きなテーマであるので、今までいただいたご意見を参考にしたい。特に7ページでは、地場産と国産を分けて考えて、書き方を整理させていただき、市民が購入の際に地場産をどれくらい認識されているかというところを、分かるような設問に変えさせていただきたいと思っている。また、後段のご意見に関しましても、地場産への意識を測れるような質問を検討したい。

**【保坂委員】**

- ・まず、高校1年生の地域課題解決学習で市の方々から協力いただき感謝申し上げる。
- ・アンケートについては協力をさせていただくが、もし、これについて説明等が必要な場合は、月1回地区の校長会を行っているので、その場でまず校長にお話をいただいた後、学校の方にお越しいただけるとスムーズに行くと思う。今回の調査期間が11月から12月ということだが、10月24日に地区の校長会があるので、私に電話等をいただければ時間と場所等についてお伝えする。また、この調査項目の説明等を校長にもしていただければと思う。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・地区の校長会で説明させていただくこととして、準備をさせていただく。

**【空委員】**

- ・高校生からアンケートを回答してもらい、実態を把握することは非常に大事なことではあるが、それだけでは少しもったいないので、アンケートの実施に合わせて、何かを学んでもらったり、意識してもらったりするようなことができればと思っている。
- ・高校生向けのアンケートは、これからひとり暮らしなどしていく上で大事なこととして、個別に状況を見てみようということから始まったと思うが、もし、アンケートを取る時に合わせて、特に高校生向けに意識してほしいようなことを、例えば食育計画の中からポイントを絞って、個々人に情報提供するようなことができないかと考えている。
- ・学校の負担になるようだと難しいが、アンケートに何か足してやるような余地はあるか、実際の現場の雰囲気を知りたい。

**【保坂委員】**

- ・学校現場の実情を話すと、非常に調査が多く、生徒向けのアンケートも多い。何が一番職員の負担になるかというところ集計作業である。生徒に書いてもらったものを送り返すだけであれば比較的スムーズだが、いったん学校で集計して、その結果を使って何か生徒に示そうとすると負担は増えると思う。例えば、集計していただいたものをフィードバ

ックしていただいた方が、学校としてはありがたいだろうと思う。また、特に北城高校には普通科の他に生活文化科という、いわゆる家庭科を専門学科としている学科があるので、そういった生徒には今後の参考になるかと思う。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・集計は、当然市が行う。また、まとめ方についても、校長会などでお話を聞かせていただき、できるだけ結果を高校生の皆さんの学習に活かしていただきたいと考えている。

**【信田委員】**

- ・私は農業高校で講師をしており、食品と森林資源コースのクラスを持たせていただいている。北城高校でも郷土料理の話と今後の生き方という話をさせていただいたこともあり、このアンケートについてもいくつかお伝えしたい。
- ・今の高校生が何を思っているかということを知った上でアンケートを作ったらいいかと思う。私が担当しているのは3年生だが、就職や進学に向けた一番の不安は、一人暮らしした時の食べ物だということになっている。そのことに関して何が不安かということ、買い物や、お金の問題だということ。都市に行った時に一体どんな値段設定になっているのか、また地元のようにおいしいものが食べられるのか、お米のような当たり前のものが都市でちゃんとそろうだろうか。また、調理を家庭で教わる機会についても、働き世代のお子さんたちなので、ほとんど家庭で料理をされる親がいないというのが現状にあると思う。
- ・食育のアンケートと言っても、食育という言葉が高校生が感じるタイミングはなかなかないと思うので、もっとわかりやすく料理のことを聞いたり、ちょっと言葉を変えて、結果これが食育なんだよということを示したりすれば、より答えやすいと思う。
- ・朝食をどれくらい食べるかとか、家族と食べるかとかは大事なことだと思うが、彼らにどんな価値を提供できるかということを最終目標にさせていただいた中で、設問を作っただけだったらいいと思う。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・現場で高校生から直接声を聞いてらっしゃることなので、今高校2年生がどんなことを不安に思っているのかを聞けるような設問の作り方についても、こちらでいったん整理した上で、改めてご意見いただければありがたい。

**【信田委員】**

- ・もしよろしければご協力させていただきたい。

## ⑤その他

### 【松井委員】

- ・次第の「(5) その他」について、まず、事務局から情報提供等があればお願いします。

### 【事務局：岩澤係長】

- ・直近で実施予定のイベントがいくつかあるので情報提供させていただく。
- ・まず、地産地消推進キャンペーンについて。キャンペーン期間中、参加店舗を回って対象商品を購入し、500円ごとにもらえるスタンプを集めると、キャンペーン参加店舗で利用できる共通商品券などが当たる。開催時期は、昨年度同様、10月15日（日曜日）から11月30日（木曜日）までの1か月半としており、今年度は、昨年度の38店舗を上回る42店舗が参加する予定である。
- ・次に、地産地消推進の店のロゴマークの一般投票について。今年度、農政課では地産地消推進の店のロゴマークの作成を行っているが、8月10日（木曜日）から9月20日（水曜日）までデザイン案を公募した結果、市内外から57件の応募があった。10月5日（木曜日）に開催する地産地消推進会議において5案程度に絞った上で、10月20日（金曜日）から約1か月間、一般投票を行い、決定することとしている。
- ・最後に、10月28日（土曜日）に農林水産フェスティバルの開催を予定している。今年度は会場を直江津屋台会館とした。農業用機械の乗車やシミュレーション、丸太試し切りなど各種体験のほか、地元の食材を使ったお味噌汁の試食、上越産米粉を使ったスイーツや上越市地産地消推進の店プレミアム認定店商品の販売などもある。
- ・各イベントについて、委員の皆様からもぜひ参加いただければと思う。

### 【松井委員】

- ・おいでいただいた皆さんからもぜひ、ご自分の取組や、食育に関する情報提供をいただければと思う。

### 【亦野委員】

- ・フードロスについて先ほどお話しさせていただいたが、通常フードドライブであれば家庭に眠っている缶詰などを収集するというイメージがあると思うが、あるるん畑のフードドライブでは生産物ロスと呼んでおり、農場の野菜が、直売での販売や近所へ配った上でもまだ残ってしまい、捨てざるを得なくなってしまうときに本当に必要な人に届けたいという農家さんの思いがあったため、そういう野菜を集めて、本当に必要として

いる方にNPOを通じて提供しようと思ったもの。

- ・もちろん農家さんから収集する野菜も多いが、一般の方々の食品も受け入れる小さな段ボールを設置したところ、そこに集まる食品がものすごく多いなという印象を受けている。当初は農家さんの野菜を提供しようという思いで始めた取組だったが、結果的には一般の方々のご理解を得られ、昨年度は全部で1,400点以上の収集があった。

#### 【信田委員】

- ・私は地元のこども園の給食をやっており、150人ぐらいの給食を毎日提供しているが、地元の野菜を使いたいということで、あるるん畑さんから仕入れさせていただいている。
- ・地元の農家さんと手をつないでやってきた飲食店出身なので、農家さんから直接仕入れるほか、JAさんを通して確実なもの、正確なもの、良いものを仕入れようとしているが、やはり今ロスの問題に直面している。
- ・いっぱい作ってくださいと言っても、給食の規格外のものは提供されづらいということがあり、それらがロスに繋がっていると思う。それはたくさん仕入れたい給食を作る側にとっても大変なことで、こども園をやっている私たちにとって大変なら、小・中学校を任されている方々は大変だろうと思うので、そこに关われるような仕組みを今作っている。
- ・どのようにすればいいかということで、保存を効かせるような方法や、生産物を一度に作ることができるのであれば、一度に作る仕掛けが作れないかということをお農家さんと語り合っている。
- ・飲食店は、今も厳しい状況にあると思う。コロナ禍を超えて生き残っているお店ではあるが、やっぱり集客が非常に取れないということなので、できればあらゆるイベントにシナジーを持って取組を作っていただきたいと思っている。流行る飲食店は流行っており、顧客のついでに飲食店もたくさんあるが、その逆に7割ぐらいがほとんど平日に人がいないような状況だと聞いているので、イベントなどちょっと提案されれば、たまにはやってみようかなあと思ってくださる方もいらっしゃると思う。
- ・私は、今あるるん畑の中で三星惣菜店という惣菜の工場を持たせていただいているが、取り組んでいるのはほぼロスになる野菜の活用ということで、そこへ飲食店のオーナーさんをアルバイトに誘っている。皆さん自分の知恵を振り絞って、惣菜になっていくというのが嬉しいようだ。協賛してくださいと言うよりも、私達未熟なので監修してくださいというふうに年配の料理人さんには言っているが、自分の店の営業の無い時間帯に

喜んで来てくださる。

- ・なぜこんな地元の素材を、地元野菜を使う総菜を作るのかと不思議がられるが、全ては給食の子供たちのためにいっぱい農家さんに作ってもらうことを目的にしていると、その動機づけとして私が全部買いますと宣言しているのだということ、年配の調理師さん、料理人さんたちは涙を流して手伝ってくれるという状況にあるので、難しいかもしれないが、このことを何かの形でイベントの開催にもつなげていただければと思う。

#### 【空委員】

- ・地域のを地域で食べるということは大事なことだと思っている。今後、食品加工のためのコストが高騰し、遠くから持ってくる場合はトラックドライバーが足りなくなったりして輸送費が上がり、しかも燃料費も上がってくるとなると、本当にこれから今まで普段食べていたものの値段が上がってくる。
- ・一方、近くでとれたものであれば、そういったコストはかからずに、安心して入手できるということがもっと際立ってくるのではないかと考えている。そういう面でも、やはり近くで作って近くで食べるという地産地消という取組を広く皆さんと一緒に取り組んでいけたらいいなと思っており、そういったところにターゲットを絞ることも大事ではないかと考えている。コロナが明けて、イベントでも試食などができるようになってきたので、食品に関わる方々との連携を深めて取り組んでいけたらと思っている。

#### 【市川委員】

- ・私は市内の少し中山間地に住んでおり、自家消費用の畑もやっている。今だと、ナスとかオクラ、ピーマン、ししとう、モロヘイヤなどが食卓に上がっている。ゴーヤの緑のカーテンがまだ残っていて、ゴーヤもよく食べる。
- ・近所の畑でとれたもののおすそ分けもあり、すごく豊かだなと思っている。このような上越の暮らしの価値を、子どもたちにも伝えていきたいと思っている。
- ・食育というのは、どんなことなのかということを考えながら、日々、私生活も仕事も、取り組んでいきたいと思っている。

#### 【金子委員】

- ・我々が、今、食育で取り組んでいることはいくつかあるが、一つは、今朝も富山市内の小学校で、食品ロス削減を進めるためにはどうしたらいいのか、エシカル消費というのは何なのかということ、出張授業という形でやってきた。
- ・それをやると、子供たちは給食を絶対残さず食べるとか、お父さんお母さんが後ろから

商品取っていたら注意するとか、自分ができることは何かということを考えて一生懸命頑張っていますというような、熱い反応がその場で感じられるので、我々としては、そういったことを地道に取り組んでいながら、セブンイレブンのイメージのアップにも繋がればいいなという思いも込めながらやっている。

- ・実際の食品ロス削減というところでは、今B級品の活用というのをやっている。ブランドの枝豆のブランドにならなかった、房の中に豆が1個しか入っていないものなどをいっぺんにお預かりして、商品の材料として使わせていただいている。それを行政の皆さんと一緒に、外部に発信している。そういったことを、商品を通して、本業を通じて、皆さんに知っていただきたいという思いで仕事をしている。
- ・上越の郷土料理は一体どんなものなのかがよく存じ上げていなかったのだが、先ほど上越野菜という話があって、スマホでちょっと調べたら、すごく種類があって、見たことも食べたこともないものがこんなにあるのだということが分かった。さっきの高校生のアンケートの中で、上越市内の高校生が、上越野菜を一体どのくらい知っていて、どんな上越の郷土料理についてどういう理解をしているのかということを入れられると、非常に生きたデータになるのではないかと考えていた。
- ・私は上越に在住していないので、なかなか地域に根差したことは発言できないが、そういったことを考えながら、引き続き取組を進めていきたいと考えている。

#### 【鳥越委員】

- ・フードドライブを実践しているということで、亦野委員からもお話があったが、JAでは女性組織を持っており、その中で家庭菜園をするときに、1人1株余計に植えて、余計に実った野菜を寄付しようという運動が取り組まれている。寄付しやすいような、例えばじゃがいもなどの芋類、腐りづらいようなものを作ってもらって、寄付していただいた。そういう取組もだんだん増えていっている。
- ・また、出前授業ということで、比較的小学校に呼んでもらうことが多いが、その中で、SDGsと農業を絡めたような話をして欲しいということで、なるべくわかりやすいように、自分もしゃべってわかるような話をさせてもらっている。今の農業の現状とか、食料自給率食品ラベルについて聞きたいというような先生からのリクエストをもらうこともあるが、まずは理解するのではなくて、そういうのがあるということを知ってもらって、そういう話があったなというところで意識づけをしてもらえればいいと思って話をさせてもらっている。

- ・また、食の地産地消もそうだが、食料自給率が38%ということで、まずは国全体で自分たちが消費する部分は自分たちで生産しようという、国消国産というような言葉が最近言われているが、国消国産推進キャンペーンということで10月1日より各直売所で開催されている。二次元コードを読み取って参加することができるので、委員の皆様からも参加いただければと思う。

#### 【飯塚委員】

- ・私は子供が2人、都内で一人暮らしをしている。改めて食育というものに興味があり、また、店舗経営をしていて、地元の食材を使った商品を作って、販売をしているという観点もあり、公募委員に申し込んだ。
- ・今回は、皆さんのすごくためになる話を聞かせていただき、一市民として、これからどう向き合っていくといいのか、すごく考えさせられる機会となった。
- ・店舗の方でもフードロス等があるので、今お聞きしたような取組に参加させていただければと思う。また、子供たちが、上越の食育に関して考えてくれる機会になればいい、微力ではあるが、食育に関することに参加させていただければと思った。

#### 【中嶋委員】

- ・小学校では、二つの事を大事にしていると思っている。
- ・一つは、残食を減らすということを先生が意識していると思う。この物価高騰の折に、低価格で誰もがおいしい給食をいただいていることは、とてもありがたいこと。そして、そのことにまだ気づいてない一年生もいるが、いただきますと言ったり、いただきますの意味はどういう意味かということ、何を担任が教えることもある。一つ一つの食事を大事にして、残食を減らすということがとても大切なことだと日々考えている。
- ・そしてメニューの中には、地産地消ということで、どこそこのオータムポエムだとか、どこそこの大根というものが出てくる。私も長く学校給食をいただいている中で、あの地域でオータムポエムがとれるのだと知ったこともあった。そういうふうにして、学校給食の中で地産地消ということで、先ほど話題になったように、食材を取り入れていただくということは、子どもを通して、今日給食でこういう食材が出たんだよと、家庭に返っていくことも考えることができる。
- ・二つ目は、子供たちの活動とやっぱり食が関係してくることもある。私は食べることは生きることだと思っていて、生涯続くことなんだなあと、今日この場に参加させていただいて改めて感じた。

- ・この夏、二年生が畑に挑戦したが、畑は遠いし、花壇はちょっと危険だからということで、プランターで栽培を始めた。教室から下をのぞくと見られるし、親子でそのミニトマトを取りに来ていた。そういうことを通して、普段家庭ではしないことを学校で体験することができた。
- ・総合学習では、以前、郷土料理に挑戦された学級があって、郷土料理のメニューに何が入っていて、どこに取りに行ったらいいのかというふうに、総合的に取り組んだ。
- ・そういうことを考えると、今日ここでまた話題になった三星惣菜店さん、B級品の利用、それから、国消国産というようなキーワードが、私たちの中で生きて今度子供たちの学習に反映できればと思う。
- ・私はこの夏、妙高のトマトをいただいたが、トマトの頭に星印がついていると慣熟して甘いということで、切ってみると本当に真っ赤で、フルーティーだった。大人になってから初めて知ったが、こういうものをいただいて、かつ、自分で育て食べることができたなら、自給自足は贅沢なのだなと思っている。
- ・そういうことに気づくには、まだまだ子供たちは年をとり、経験をしていかななくてはならないので、皆さんからいただいた情報を、私はまた現場の職員に返していきたいと思っている。

#### 【保坂委員】

- ・高田北城高校の食育についての具体的な取組としては、まず生活文化科があるので、ここでは地元の食材を用いた調理実習を行っている。
- ・一方で普通科に関しては、なかなか具体的な取組というところまではいっていないような気がする。しかしながら、今回また食育についてのアンケートを実施していただくに当たり、そこで子供たちが回答しながら、食育について興味を持ってもらえれば、ありがたいなと思っているので、次回行われるそのアンケートについて、またいろいろ工夫していただくことになるかと思うが、ひとつよろしくお願ひしたいと思う。

#### 【松井会長】

- ・貴重な情報をたくさんいただいた。私も、大学に帰って学生に伝えたいなというふうになっている。
- ・本日の議題は全て終了した。以上で議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

#### (4) 閉会

【事務局：伊藤副課長】

- ・以上で、令和5年度第1回上越市食育推進会議を終了する。

8 問合せ先

農林水産部農政課

TEL：025-520-5747

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。